「碧樹館プログラム」第18期生を募集

～道なき道を切り拓く使命感を持つリーダーの育成～

橋田 紘一
理事長兼塾長

非常時こそ問われるリーダーの真価

コロナ禍の前後で人々の考え方や行動が大きく様変わりする中、このような非常時こそリーダーの真価や資質が大きく問われている―。2004年4月に九州の産学官界の連携で設立された特定非営利活動法人九州・アジア経営塾（通称KAIL、事務局・福岡市中央区渡辺通2丁目、橋田紘一理事長兼塾長）は、次世代のビジネスリーダーを育成する「碧樹館プログラム」の第18期生の募集を2月17日から開始する。

同プログラムは、各界の最前線で活躍する講師を招き、講師と塾生、塾生同士の徹底した討論によって得られた気付きを塾生自身が実践し、「自らの基軸」を確立していく変革型リーダーの育成が特徴だ。対象は組織を動かし、変革できる企業・団体の経営ミドルや役員、起業家などを想定。11カ月間、受講時間約230時間の業務継続型プログラムで、集合学習と反すう学習、プロジェクト学習の3つを柱に展開する。

第18期は6月下旬に開講し、来年4月下旬に修了予定。原則、隔週土・日曜日にセッションを行う。第17期と同様に集合時の感染防止対策を徹底するほか、時々の状況に応じてオンライン方式での受講を導入する。受講料は250万円（税別）で、定員は36人。応募締め切りは4月下旬を予定し、志望動機書や面談をもとに総合的に選考する。

社会に貢献する『人財の森』着々

碧樹館プログラムでは、卒塾後も同窓会組織「碧樹会」を通して、先輩や後輩を含めた人的ネットワークの場を提供しているのも大きな特徴だ。卒塾生は昨年4月に卒塾した第16期生までで555人に達し、すでに各企業・団体で経営の中枢に深く携わる人材を多く輩出している。その碧樹会では、国立大学法人九州工業大学と学生のキャリア支援に係る包括的な連携協定を締結し、昨年秋には両者連携による初の講義を実施するなど、地域の課題解決に向けた取り組みにも乗り出している。

橋田塾長は「先行きは誰にも分らない今こそ、我々自身が、組織が、そして社会全体が、現実をありのままに受け止め、従来の枠にとらわれずに殻を破っていかなければならない。そのためには〝正面から受け止め、逃げない姿勢〟で将来を自分で考え、検証し、実践していくしかない。世のため人のために利他の心を尽くし、自分を、周りの人々をそして社会を導いていこうという志ある人の応募をお待ちしている」と話している。

KAIL
THE KYUSHU-ASIA INSTITUTE OF LEADERSHIP

碧樹館プログラム
第18期
2021年6月開講